

C

出 張 報 告 書

土井 道子



4 関係書類 別紙のとおり



会 議	市民と議員の条例づくり交流会議 2017（第17回） 議会のチェック機能を本気で考える
日 時	平成29年7月29日（土）～7月30日（日）
会 場	東京都千代田区 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎
内 容	全国自治体議会の運営に関する実態調査 2017 概要報告 長野基氏（首都大学東京） 報告内容 議会改革及び議会の状況 ① 議会基本条例の制定・評価・改正 2017年3月現在 796 議会が基本条例を制定 ② 地方自治法改正の対応 改正地方自治法に基づく通年制を条例で制定：1.1%（17 議会） ③ 議会への市民参加 議会として市民との対話する機会を設けた：53.1% ④ 議会における議員間討議 実施を定める規定（38.9%）実施実績（22.17%）が会議規則・条例で議員間の自由討議を規定 ⑤ 議会による情報公開 傍聴者への資料提供：69.2% ⑥ 議会による政策形成・政策マネジメント 議会による議案修正 提出者側の修正対応：4.3% 議会側の修正案提出：18.3% 可決：9.4% 全体会議 「今あらためて議会選出監査委員制度を考える」 基調講演 山梨学院大学教授 江藤俊昭 氏 パネラー 福岡市役所 馬場伸一 氏 東村山市議会議長 伊藤真一 氏 所沢市議会前議長 桑畑健也 氏 自治法改正にのっとり、2年後には 議員の監査委員選出の選択性が謳われ、改めてその役割が問われることになった。議員選任監査委員はベテラン議員の名誉的な側面がある、監査委員は生涯にわたる守秘義務があるなど制度上、実態上問題視されてきた経緯がある。 監査の実務は、決算審議とは別の任務、毎月の資金の流れをつかみ、実務で不正な事実がないかを見ている。

	議員選任監査委員が廃止された自治体議会は、二元代表制の監査機能の一部を奪われることを意味する。会計事務の監視役を担う誇りと責任をもって業務知識の蓄積を怠らず行政の将来を見据えた危機管理能力を備えていくことが議会に対する信頼にこたえることである。 財政的の余裕のある自治体は、議選監査制度は絶対すべきである。 また議員は、他自治体も含めて監査結果の活用を図ることが大切である。
感想	毎月の監査報告書が配布されてきて、大変な業務であろうことは推測していたが、今回のパネラーの議論を聞いてあらためて監査の重要性を認識できた。 自治体によっては、議選の監査委員に対して事務局職員がジレンマを感じながら作業を見ていたことも驚いた。 議員として公会計のみかたや決算審査などさらに学習する必要性を感じ、その結果行政に対してチェック機能を働かせることが、住民の福祉向上につながると思える会議であった。 また高校生の発表から、選挙や議員に対してのみかたに距離があることを感じた。もっと広くわかりやすい議会活動を展開するには、若い人への視点を変えた取り組みが必要と思われるので、議員間で協議しながらその機会を持てるように考えていきたい。

研修	あなたの質問を画期的に変える集中講座 「質問準備の効果的方法」
日 時	平成29年7月28日（月） 14:00~16:30
会 場	東京都中央区 アットビジネスセンター東京八重洲通り
講 師	医学博士・MBA 宮本 正一 氏
内 容	講師経歴 平成7年に27歳で寝屋川市議会に無所属で初当選し5期20年務める第54代市議会議員 橋下とおる大阪府知事選など11の選挙対策本部で事務局長を務める。 座右の書 「政と官」 後藤田正晴 役人は政治家をバカにすることがある。しかしそれは間違いだ。政治家は、多くの人間に自分の名前を書かせるのである。それだけの何かを政治家（特色）は誰でも持っているのである。 質問準備の前に ●地方議員は2つの活動を行う ① 政治活動 ② 選挙活動 ③ 議員の素質 ・信頼できるか ・スピードがあるか ・安心できるか』 真心があるか ・見た目が良いか ●議会ルール ・先輩議員の言葉をそのまま受け入れない ・先輩議員の議事録を見る ・先輩議員の知識量を確認 ●質問通告は、議員主導による政策論議を展開（簡明で次元を高く） ●自身の経歴から質問を作る（自身の肩書を活用） ●自身の公約から質問を作る（興味のある分野をアプローチして深掘りする） ●質問は執行部に響くように整理する（具体性を持たせる） ●情報公開請求 ●情報公開請求で開示できない資料 ・個人に関する情報 ・法人に関する情報 ・事務・事業の執行に関する情報 ・国等との協力・信頼関係に関する情報 などがあるので具体的に進めるためには自身でデータをよく精査して質問をまとめる ●年間原稿作成シートを作成（定例会・委員会での質問予定を考える）

感 想	講義は、時々受講者へ質問しながら進むので、受動的に聞くだけでなく、的確な回答をしようと思えば緊張の走る時間も多くあった。 議員になってからでも選挙に立つときの自治体の有権者数・自身の得票数をきちんと把握しておくこと、後援者の苦言、助言、住民とのやりとりなどを大切に記憶しておくことも講義の中に含まれていて、通常の議員活動では得られない有意義な時間となった。 また、質問するときのフォロー図が分かりやすく、資料の収集、情報の集め方にも応用できると考えられるので、具体的な質問を整理するためにも参考にしていきたい内容であった。 住民の福祉向上を図るための基盤は財政にあると考えるので、その方面の知識を学習して質問を考えていきたいと思っている。
-----	---